

## 都野神社(与板八幡宮)焼組香奉納額における空花恵南参加の解釈について

## 【新知見】

前回の報告において、空花恵南の没年と供香の開催時期に矛盾があることを指摘したが、それに関し新たな知見が得られたので報告する。

恵南没後9年の明和五（1768）年に発行された、近世京都の地誌・案内誌である『明和新增京羽二重大全』（注1）において、十炷香道者として、「西六条 僧恵南律師門人 栖鶴」の記載が確認できる。改定前の版である延享二（1745）年発行の『改正増補京羽二重大全』では十炷香道者として、「西六条 恵南」の記載があることから、西六条にあった恵南の庵で香業を継ぐ「栖鶴」という門弟がいたことが指摘されている（注2）。

このことから、与板の香会には、当初「恵南」に参加が求められたが、すでに死亡していたため、後継者である、「栖鶴」が代参で出席した可能性がある。「恵南」名で記録された理由は、この代参である点や、師が銘名した香を披露するなどの事情が考慮されたのではないかと推察される。

弟子が師匠の代行を務めることは、大枝流芳の死後、弟子の皆伝者である樋口淳叟が岩田五良兵衛の求めにより香道の蘊蓄を記した書を師に代わって伝授している事例（注3）が報告されている。

（注1）『明和新增京羽二重大全』『改正増補京羽二重大全』貞享2（1685）年刊行の『京羽二重』の改訂版。このシリーズは、京の歴史、町筋、名所、産業、人物等を記した地誌・案内記であり、当時の芸事の師範・知識人や美術・工芸・織物など商工業者の情報を細かく記述している。

（注2）翠川文子 2001 「忍鎧とその著述」『川村学園女子大学研究紀要』第12巻第3号川村学園女子大学

（注3）翠川文子 2004 「大枝流芳（岩田信安）小考」『川村学園女子大学研究紀要』第15巻第2号川村学園女子大学

西暦	年号	できごと
1745	延享2	本年発行の『改正増補京羽二重大全』に、十炷香道者として「西六条 恵南」の記載がある。
1749	寛延2	寛延2年～寛延4年の間に「大枝流芳」没
1750	寛延3	
1751	寛延4	
	宝暦1	
1752	宝暦2	「空花恵南」没
1759	宝暦9	与板八幡宮にて供香が催される
1768	明和5	本年発行の『明和新增京羽二重大全』に、十炷香道者として「西六条 僧恵南律師門人 栖鶴」の記載がある。
1858	安政5	江口朋光 没

※関連年表

上京本坊寺系町 正 宗室  
 神若小為西院典 千 宗守  
 西院院七系上二目 兼心亭知  
 折之傷婦小治之町 形成後甫

**十柱香道者**  
 西六條 僧 惠南

**御畫所**  
寺町九左所系行當  
 正五位下左京進土佐光芳

**畫師**  
 同之町相小治上町 持新德藏助  
 新町通合新上町 持新宮内  
 小寺町通冬町京町 持新内藏  
 出水通去公町系町 海北友泉

改正増補京羽二重大全卷三(京都府立総合資料館所蔵)一部改変 延享2年(1745)

十柱香道者  
 友者町市地角 兼野専介  
 西之系 僧 兼保 門人 栖鶴

**御畫所**  
寺町九左所系行當  
 正五位下左京進土佐光芳

**畫師**  
 塔之壇本堂町 持新正榮  
 二系方舎西入町 持新探隼  
 下三堂仲小治系町 小寺探俊  
 法東町婦小治系町 持新徳藏助  
寺町九左所系行當

**佛繪師**  
 後小治家町系何 法橋本村了縁

明和新增京羽二重大全卷三(立命館大学図書館西園寺文庫所蔵)一部改変 明和5年(1768)

## 文化財パンフレットの改訂について

1. 平成 26 年 3 月 史跡編・建造物編・民俗芸能編 作成  
指定文化財及び登録有形文化財を掲載し、文化財の周知を図る。

2. 令和元年 9 月 改訂版を作成

## 改訂内容

- ・全体の説明文の見直し。
- ・史跡編  
掲載文化財の数に変更なし。  
掲載している史跡に関連する資料館の情報を掲載。
- ・民俗芸能編  
「越後の凧合戦習俗」（県指定）の追加。
- ・建造物編  
掲載文化財数が 28 件から 39 件となり、11 件の増加。  
松籟閣が「旧平澤家住宅」として重要文化財に指定された。  
追加された文化財（すべて登録有形文化財）

長岡市水道局旧中島浄水場 監視室棟	長岡市水道局旧中島浄水場 予備発電機室棟
長岡市水道局旧中島浄水場 ポンプ室棟	越乃雪本舗大和屋店舗兼主屋
巴ヶ丘もみじ公園巴ヶ丘山荘	秋山孝ポスター美術館長岡本館
越のむらさき 主屋	越のむらさき 土蔵
星六 土蔵	星野本店 三階蔵
長谷川酒造	

3. 今後の課題

- ・今後掲載する文化財が増えた場合の対応  
特に建造物編は、これ以上増えると 1 枚のパンフレットの中に収めるのが難しくな  
ってきているため、どのように作成するかが課題となっている。

## 対応案

- 説明文を削って、1 枚に収めるように作成する。
- 指定文化財と登録有形文化財や地域などでわけて、分割して作成する。
- 用紙サイズを大きくする。



## 寺泊地区遺跡試掘確認調査事業について

調査地	長岡市寺泊年友地内
調査内容	県営経営体育成基盤整備事業（年友地区）に伴う試掘調査
調査期間	令和元年10月1日～同年10月30日
調査主体	長岡市教育委員会
調査担当	科学博物館文化財係主査 加藤由美子
調査面積	495 m <sup>2</sup> （1.5m×2m×165か所）
現況	水田・畑地
遺跡の立地	東頸城丘陵から派生した小丘陵の谷部及び島崎川沿岸の沖積地

- 調査結果
- ・大半のトレンチは田面下すぐに植物腐植土の堆積が存在する極めて軟弱な地盤であった。例外は島崎川沿岸部に設置したトレンチで、砂質土の厚い堆積が確認できた。
  - ・31 トレンチでピットを1基、29・30・48・49 トレンチで平安時代の遺物包含層を検出し、土師器・須恵器が定量出土した。堤下遺跡として新遺跡の登録を行った。
  - ・92 トレンチで古墳時代の遺物包含層から土師器1点が出土した。遺物量は少ないが包含層が安定しているため、竹ノ沢遺跡として新遺跡の登録を行った。



## 市指定文化財の県指定答申について

長岡市指定有形文化財（絵画）「法華経絵曼荼羅」

指定年月日：平成 25 年 3 月 25 日

所有者：宗教法人 妙法寺（長岡市村田）

令和 2 年 2 月 10 日、新潟県文化財保護審議会において新潟県文化財の指定が答申された。

指定名称：「絹本着色宝塔絵曼荼羅」

（文化財の概要、指定理由等）

- ・縦 85.0×横 38.3 cmの仏画 保存状態は良好
- ・法華経を絵画化し本尊とした日蓮宗独特のもの。
- ・宝塔をかたどる絵曼荼羅であることから、関東系日蓮宗の特徴を示す。
- ・妙法寺が関東系日蓮宗の影響下にあることを示し、越後の日蓮宗のありかたを考えるうえで貴重である。

